



衛藤 竜哉

新市の交通体系・住宅環境の現状と見直しは

質問

道路交通網の改修、改善は。

答弁 建設部長

中心部の幹線はほぼ完成していると思いますが、周辺部では多くの箇所改修の必要性を感じています。中九州横断道路の早期完成や国道、主要県道などの早期整備を国や県に働きかけます。アクセス道路も新市まちづくり計画の中で道路整備計画を策定し循環型道路網の整備を図っていきます。

質問

市営住宅の拡充、改善は。

答弁 建設部長

住宅整備は、高齢者・障害者に優しい住宅や若者の

定住促進をはじめUターン・Jターン・Iターンなどの受け入れのため良質な高品質な住宅の整備が求められています。財政状況などを考慮し、計画的に実施していく必要があります。需要と供給のバランスの動向などを検討し、住宅整備の拡充を図ってまいります。

市職員の適正配置は

質問

市職員の配置状況は。

答弁 総務部長

現段階では、必ずしも適正とは言えませんが、職員にアンケートを取るなどして状況把握に努めています。組織機構の見直しのため検討委員会を設置し複眼的な視点からの協議を進めています。毎週、部長会議を開き、部署間相互の連携を図るための協議を行っています。



間もなく完成の久原(犬飼町)住宅



衛藤 正宏

市長の基本的な施策を伺う

質問

周辺部の不安や懸念を解消するための具体的な施策は。

答弁 市長

この重要な課題に取り組むため本年過疎地域自立促進計画を策定し、市の総合計画を予定しています。

また、県の「合併地域活力創造特別対策事業」として、地域と協働で取り組みサポート体制も整ってきています。

質問

過疎自立計画案は旧町村の特徴を活かしているか。

答弁 企画部長

本計画は旧町村で十分に議論され、その特徴なり意向は反映されているものと思います。市全体を見渡した中でそれぞれの地域振興策が全市民から納得を得られているかが、問題として浮上してきます。

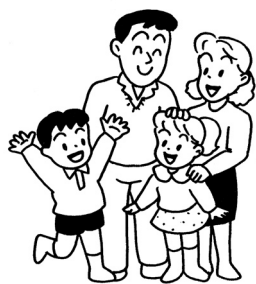
この点については議会とも十分協議し事業の見直しなども行いたい。

質問

新市まちづくり計画を基本に市民が安心して期待できる総合計画をつくるべきと思うが。

答弁 企画部長

新市建設計画をひとつの拠り所として豊後大野市の誕生したわけですから、この建設計画が今後策定する総合計画の基礎となります。このようなことから市民が安心して暮らせるまちづくりを行なうため、マスタープランである総合計画の策定を最重点事業として位置づけています。



可能性が広がる地域高規格道路（千歳～大野間）